

# ふるさとの環境チェック

健康で安全な生活環境は、私たちみんなの願いです。市では、公害の少ない住みよい環境をつくるため、大気汚染や水質汚濁などについて、調査・監視をしています。  
ここでは、平成16年度の調査結果についてお知らせします。

## 大気環境

大気汚染物質は、主に工場・事業所などの固定発生源や自動車などの移動発生源から排出されており、これらから光化学反応等により二次的に生成されるものもあります。

市や県では、降下ばいじん量、硫黄酸化物、浮遊粒子状物質、窒素酸化物および光化学オキシダントについて常時調査・監視しています。

大気汚染物質濃度の年平均のここ3年間の推移は、【表-1】のとおりです。各大気汚染物質濃度の年平均はほぼ横ばいで推移しています。

二酸化硫黄、二酸化窒素はすべての調査地点で環境基準を達成していますが、光化学オキシダントと浮遊粒子状物質については達成していません。これらの要因としては、工場・事業所や自動車など人為的なもの、黄砂等の自然起源によるものや気象条件の影響が考えられます。特に近年、季節や気象条件によっては、光化学オキシダントや浮遊粒子状物質の測定値が高くなるが多くなっています。今後も、より良好な大気環境を目指して監視測定を引き続き行います。

【表-1】 大気汚染物質濃度の年平均値と環境基準達成状況

項目地点		二酸化硫黄	浮遊粒子状物質	二酸化窒素	光化学オキシダント	降下ばいじん量	硫黄酸化物
		ppm	mg/m <sup>3</sup>	ppm		t/km <sup>2</sup> /月	※1
市役所	H14	0.004 (○)	0.027 (△)	—	—	2.30	0.02
	H15	0.005 (○)	0.024 (△)	—	—	2.91	0.01
	H16	0.005 (○)	0.026 (○)	—	—	2.36	0.00
須健康公園 ※2	H14	0.002 (○)	0.029 (△)	0.013 (○)	0.033 (×)	3.36	0.05
	H15	0.003 (○)	0.026 (○)	0.015 (○)	0.034 (×)	4.06	0.06
	H16	0.002 (○)	0.025 (△)	0.015 (○)	0.029 (×)	3.66	0.06
竜中学校	H14	0.002 (○)	0.033 (△)	0.014 (○)	—	4.01	0.06
	H15	0.002 (○)	0.029 (△)	0.013 (○)	—	3.97	0.08
	H16	0.002 (○)	0.028 (△)	0.013 (○)	—	4.03	0.06
山陽総合事務所	H14	—	—	—	—	2.30	—
	H15	—	—	—	—	3.16	—
	H16	—	—	—	—	3.10	—
殖生漁業協同組合	H14	—	—	—	—	2.41	—
	H15	—	—	—	—	2.29	—
	H16	—	—	—	—	2.80	—

注) 環境基準達成状況は年平均値では評価せず1時間値や日平均で評価する。

(○) 環境基準を達成している (△) 環境基準の長期的評価のみを達成している (×) 環境基準を達成していない

※1) SO<sub>2</sub>mg/100cm<sup>2</sup>PbO<sub>2</sub>/日

※2) 降下ばいじん量、硫黄酸化物は港町の測定値

【表-2】 海域のCOD及び河川のBODの年平均値と環境基準達成状況 (単位:mg/l)

地点		年度		
		H14	H15	H16
海域	A類型平均	1.9 (×)	1.9 (×)	1.9 (×)
	B類型平均	1.8 (○)	1.7 (○)	1.8 (○)
	C類型平均	1.8 (○)	1.7 (○)	2.1 (○)
有帆川	中国橋(B)	3.0 (×)	1.5 (○)	2.3 (○)
	巨橋(B)	2.5 (×)	2.1 (○)	1.8 (○)
厚狭川	湯の峠(A)	0.9 (○)	0.7 (○)	1.2 (○)
	下津橋(B)	1.1 (○)	1.0 (○)	1.4 (○)
	渡場(B)	0.7 (○)	0.6 (○)	1.6 (○)
大正川	栗田(A)	1.4 (○)	1.3 (○)	2.3 (×)
	石丸(B)	1.1 (○)	1.6 (○)	1.8 (○)

注) 環境基準はそれぞれの類型別に基準が設定しており、基準達成状況は年平均値では評価せず、全データの内の基準値を満たしているデータ数の割合(75%)をもって評価する。(B)はB類型の調査地点。

(○) 環境基準を達成している (×) 環境基準を達成していない

## 水質環境

水質汚濁は、主に家庭や工場・事業所からの排水が原因で、厚狭川の汚れの51%が生活系、16%が産業系、有帆川では50%が生活系、25%が産業系によるものです。

市では、海域、河川で毎年、定期的に水質の調査を行っており、表2は水の汚れの年平均の推移です。海域はCOD、河川はBODで表します。

海域、河川とも年によって若干の増減はありますが、長期的にはほぼ横ばいで推移しています。平成16年度はA類型海域と大正川の栗田(A類型)で環境基準が達成できませんでした。BおよびC類型の海域、河川のその他の測定点では環境基準が達成されています。